

みずから守るプログラム シンポジウム
～住民一人ひとりの防災力向上を目指して～
新しくなった「みずプロ」の紹介



平成29年10月13日(金)
愛知県 建設部 河川課 課長 永田 真人

◆本日の話題

愛知県の水害

これまでの「みずプロ」事業と課題

新しくなった「みずプロ」の展開について

愛知県の水害(被災状況)



伊勢湾台風(昭和34年9月)

・県内死者3,000人以上

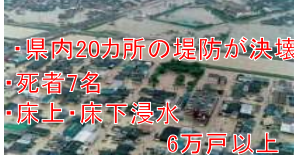


・異常な高潮の発生



東海豪雨(平成12年9月)

・県内20カ所の堤防が決壊
・死者7名
・床上・床下浸水
6万戸以上



平成20年8月末豪雨

・死者2名
・床上・床下浸水
1万3千戸以上
・時間最大雨量146.5mm



愛知県の水害(ハード対策)

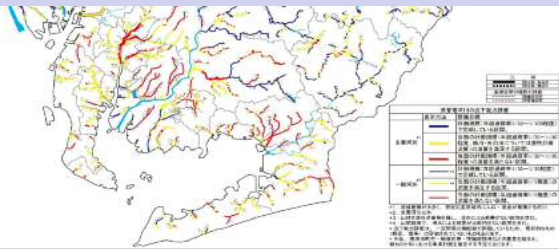


伊賀川の改修



愛知県の水害(ハード対策)

本県の整備を必要とする河川の延長は約1200kmで、整備率は約53%である。



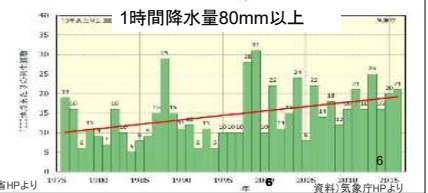
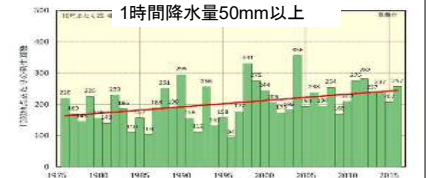
アメダスで観測した
短時間強雨発生回数の長期変化

・気象庁(1976年～2016年)
・1時間降水量 50mm以上
『非常に激しい雨』
1時間降水量 80mm以上
『猛烈な雨』

・時間降水量50mm、80mm共に
明瞭な増加傾向



平成28年8月 台風10号
若手県岩泉町の二級河川小本川の氾濫、
資料)国土交通省HPより

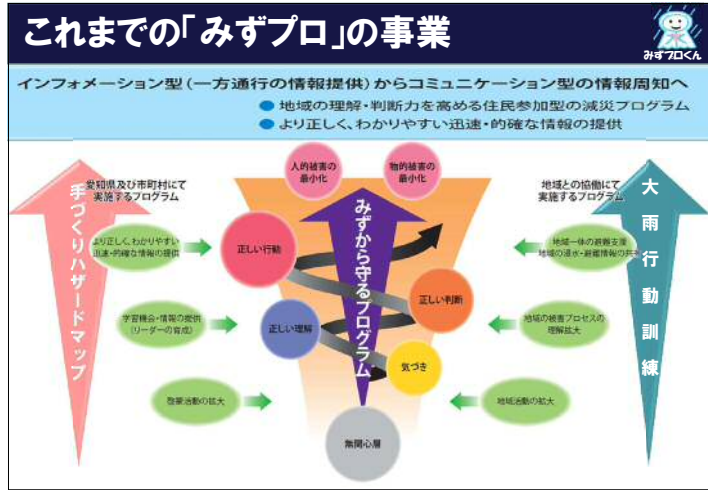


資料)気象庁HPより

これまでの「みずプロ」事業と課題

愛知県の水害リスク





これまでの「みずプロ」の事業

手づくりハザードマップ・大雨行動訓練

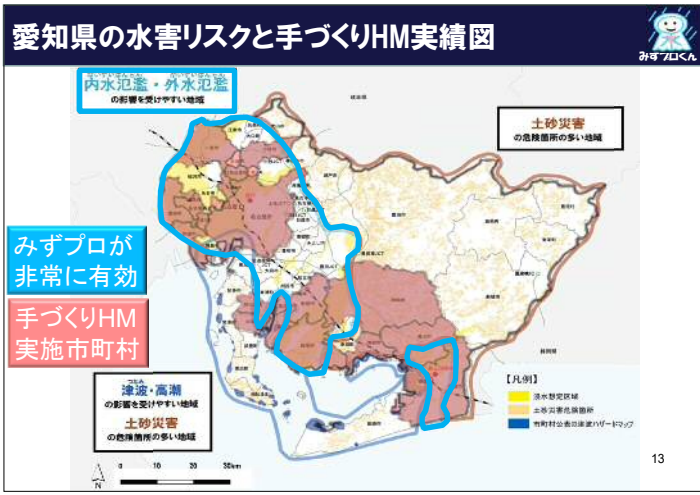
手づくりハザードマップ

大雨行動訓練

手づくりハザードマップ・大雨行動訓練の実績

平成28年3月末

地域協働事業	累計地区数	実施地区
手づくりハザードマップ作成支援事業	110地区	名古屋市30地区、豊橋市3地区、岡崎市2地区、半田市2地区、津島市21地区、碧南市2地区、安城市6地区、西尾市2地区、蒲郡市4地区、小牧市2地区、尾張旭市1地区、高浜市8地区、愛西市3地区、清須市4地区、北名古屋市6地区、弥富市9地区、大治町2地区、蟹江町1地区、阿久比町2地区
大雨行動訓練支援事業	52地区	名古屋市15地区、岡崎市1地区、半田市1地区、津島市11地区、安城市4地区、小牧市2地区、愛西市3地区、清須市4地区、北名古屋市6地区、弥富市1地区、大治町1地区、蟹江町1地区、阿久比町2地区
	162地区(重複あり)	



近年の水害から見てきた課題

九州北部豪雨(H29年7月)では、観測史上最大の2倍の雨量を記録(福岡朝倉市では24時間雨量 約1,000mmを記録)

「今回も大丈夫だろうという油断」をなくし、**状況を見極める判断・行動が必要**

H27.9 関東・東北豪雨

鬼怒川の堤防が決壊し、4,000人以上の方が逃げ遅れました。

H28.9 台風10号

岩手県岩泉町では、小本川がはん濫し、グループホーム9名の方が犠牲に

みずから守るプログラムの課題

無関心 → 気づき → 理解 → 判断行動

課題1 リスクの高い地区への展開が課題

○2m以上の浸水想定区域にある自主防災会団体数は県内で約500団体あるが、該当地区の手づくりHM作成は5%程度であった(H27年度調査)。
○500団体の防災訓練でも、地震に偏っている実態がみられた。

課題2 迅速・主体的な避難判断と状況に応じた正しい避難

○河川情報、雨量情報と対処行動を結びつけた学習プログラムが十分ではなかった。
※H26台風18号豊橋市避難指示で実際に避難所へ避難した市民は1/500であった。2階避難を含め、正しい避難が行われたか否か課題が残った。

課題3 水害学習の拡大・連携(学校と地域など)

○従来のプログラムでは、学校教育の補足プログラムとして導入してきたが、学校のみでの対応は困難であることから、地域と一体となった取り組みの必要性について有識者の指摘もあり、学校と地域が連携したプログラムの導入が課題となった。

国の防災情報提供のあり方変化

「家屋倒壊危険区域」等の公表と住民周知が求められ、リスクの高い地区への一層のプログラム展開が必要となりました。

『水防災意識社会再構築ビジョン』(H27.12)にも「家屋倒壊危険区域」等の公表・周知の必要性が明記。

「行動指南型」の避難勧告に加え「状況情報」の提供による主体的避難の促進が求められました。

『新たなステージに対応した防災・減災のあり方』(H27.1)にも主体的避難の促進が明記。

避難が遅れた場合は、自宅の2階等、なるべく高いところに避難し、退避避難の事故防止の観点が必要とされた。

『水害ハザードマップ作成の手引き』(H28.4)にも状況に応じた2階などへの避難の観点も必要と明記。

リスクの高い地区の展開強化
(家屋倒壊危険区域の周知など)

迅速・主体的な避難判断
(状況情報による主体的避難促進)

状況に応じた正しい避難
(2階等の自宅待機の心得指導)

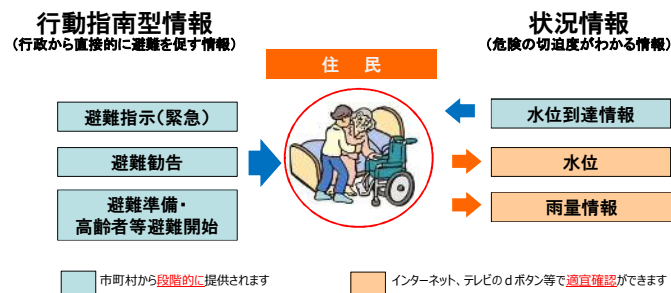
無関心 → 気づき → 理解 → 判断行動

新しくなった「みずプロ」の展開について

みずから守るプログラム改訂の主なポイント

- 1. 展開エリアの重点化** 水害リスクが高い地域へのプログラムの普及促進の強化
- 2. 利用者目線の情報提供** 各個人の状況に応じて、判断・行動を促す情報提供※
※「状況情報」の理解促進など
- 3. 地域と一体となった推進体制の連携・強化** 子どもや親など幅広い世代が一緒に学べるプログラムの充実

指南型情報と状況情報



具体的な改訂内容(1)

展開エリアの重点化

水害リスクの高い地域へ「気づき」と「取組み効果」を伝えるパンフレットの作成

水害リスクの高い地域の取組を促す「自主防災会活動手引き(水害編)」の作成

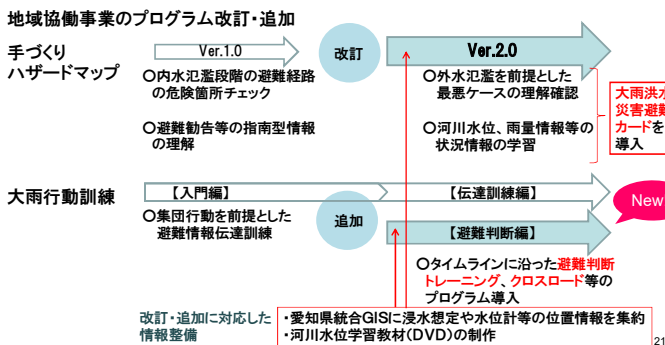


市町村の方々が、自主防災会の活動に対して、水害に対する取り組みを促していただくため参考資料を作成

	従来の活動手引きの課題
気づき／理解	○水害リスクを学ぶ機会がない ○水位等を学ぶ機会がない
判断／行動	○垂直避難を学ぶ機会がない ○水防技能を学ぶ機会がない
減災／診断	○台風準備、避難対象区域について学ぶ機会がない

具体的な改訂内容(2)

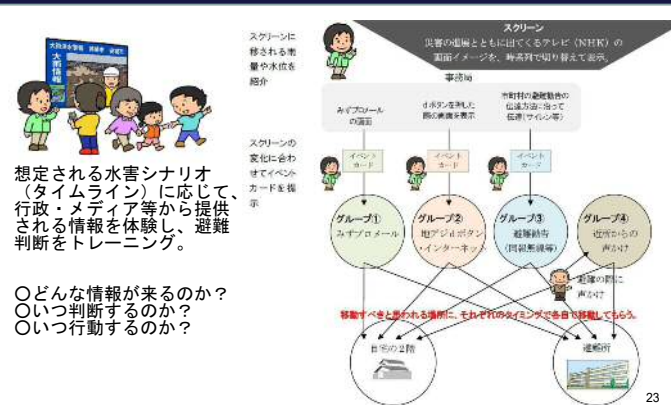
利用者目線の情報提供



「手づくりハザードマップ」の改訂 カード導入

- ポイント1** 作成した手づくりハザードマップの内容をもとに、住まいの条件にもとに、個人がリスクをチェック
- ポイント2** 市町村の洪水ハザードマップ等をもとに、みるべき水位観測所と理解すべき基準をチェック
- 水位情報の取得方法についてチェック
- ポイント3** みるべき雨量観測所の情報をチェック
- みるべきリアルタイム雨雲レーダーの情報をチェック
- ポイント4** 避難行動の留意点(逃げ遅れ、堤防決壊等の)リスクについて再確認

「大雨行動訓練(避難判断編)」避難判断トレーニング



「大雨行動訓練(避難判断編)」クロスロード

クロスロード例 AM10:00

状況
あなたは、大きな川の近くの2階建ての住宅に、小さな子供と住んでいます。
その川の河川水位は、氾濫危険水位に到達していましたが、行政からは避難勧告はまだ出ていません。
その後、行政から避難勧告がでて避難しようとしたが、玄関先の道路は5CM程の水がたまっていました。

その時、あなたは?

クロスロード例 その時、私は

A 2階へ避難する

B 避難所へ行く

○クロスロードは、「岐路」「分かれ道」。

○水害対応には「正解はない」といわれ、たくさんの「分かれ道」があることを理解。

○様々な「分かれ道」を通じて、適切な状況判断力を身に付け、「自分の命は自分で守る」力を養う。



地域と一体となった
推進体制の連携・強化

水防紙芝居
「かんそくけいちゃん と ていぼうくん」
の制作



作:やまじゆみこ 絵:ミス/マサミ

学校と地域の連携を促す事例集
等(水防カルタなど)の制作



写真:清須市学校支援地域本部提供



1. 展開エリアの重点化

- ①啓発パンフレットの作成
- ②「自主防災会活動手引き(水害編)」
の作成

2. 利用者目線の情報提供

- ③手づくりハザードマップの改訂
- ④大雨行動訓練(避難判断編)
の追加

3. 地域と一体となった
推進体制の連携・強化

- ⑤紙芝居の作成
- ⑥水防カルタの作成

ご清聴ありがとうございました

本日の話題提供でご不明な点がございましたら
下記までお尋ねください

愛知県建設部河川課企画グループ
「みずプロ」担当
電話 052-954-6553
FAX 052-953-1457

